

## 1 校内研究テーマ

「児童生徒が主体的に学ぶことができる授業づくり」

## 2 テーマ設定の理由

平成18年12月、国連総会で「障害者の権利に関する条約」が採択され、我が国も平成26年1月に同条約を批准し、2月19日より効力が生ずることとなった。その条約の第24条では「インクルーシブ教育システム」の整備の必要性について、第2条では「合理的配慮」の提供の必要性が述べられている。また、我が国では、平成24年7月、中央教育審議会初等中等教育分科会において、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」が取りまとめられ、多様な教育的ニーズに応えていくための学習環境の整備や教員の更なる専門性の向上が求められている。

本県の特別支援教育の基本理念である「地域で共に学び、共に生きる教育」の実現のためには、地域における特別支援教育の充実が求められる。特別支援教育の授業においては、授業内容が分かり、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら充実した時間を過ごし、生きる力を身につけていくという視点が基本となることから、そのためのキーワードを、「主体的に学ぶ」が適当であると考えた。また、私たち特別支援学校の教師に求められる専門性の一つとして、実態や教育的ニーズを的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画をPDC Aサイクルを通して活用した授業力の向上が重要であると考えた。

本校では、平成26年度には、評価シートを作成し、児童生徒の学習時の反応(D)を評価(C)する形成的評価に、平成27年度には、評価した学習時の反応を手がかりに、授業改善(めあてと手だての最適化)の試み(A)に取り組んだ。実際の授業から検討を進め、指導と評価の一体化に取り組んできた。

一方、授業の計画段階における実態把握や教育的ニーズの焦点化、目標の吟味などについては、取り組みが進んでいない。

そこで、平成28年度は、教員の更なる専門性の向上に向け①教育的ニーズや主体的に学ぶ姿をとらえ、②主体的に学ぶことができる授業づくりに取り組んでいきたい。また、教師の多様なニーズに合わせ、どの教師もやってみたいと思えるような研修が運営できるように、各自が授業力を高めたい教科・領域や「主体的に学ぶことができる授業づくり」へのアプローチ方法別に研修チームの組織を工夫したい。

## 3 研究の目的

児童生徒が生きる力を身につけていけるように、多様化する教育的ニーズに応じた指導の一層の充実に努め、主体的に学ぶことができる授業づくりをすることを目的とする。

## 4 研究仮説

児童生徒の実態や教育的ニーズ、主体的に取り組む姿を検討して児童生徒理解を深め、指導へのアプローチを工夫することで主体的に学ぶ授業作りができるのではないかと。

## 5 研究の内容

- ◎ 児童生徒が主体的に学ぶことができる授業を作るためのアプローチについて考える。
  - (1) 適切な実態のとらえと主体的な姿の検討。
  - (2) どのようにアプローチをして授業を作っていくのかについての話し合い。

## 6 研究の方法

### ◎ 研修グループ

学部内で、各自が授業研究したい教科・領域を選び、課題意識をもとにチームが決まりました。

#### <小学部 7チーム>

国語A、国語B、算数、生活単元学習、自立活動A、自立活動B、自立活動C

#### <中学部 3チーム>

保健体育、生活単元学習、自立活動

#### <高等部 7チーム>

国語、保健体育、生活単元学習、作業学習①、作業学習②、職業、自立活動

- (1) チームのテーマと仮説、年間計画を話し合う。(回数は必要に応じて)
- (2) 対象児童生徒(数は任意)を決める。
- (3) 実態を把握する。
- (4) 実践(事前協議、授業研究、事後研究等)
- (5) 実践の結果を話し合う。

研修で作成した評価シート、授業改善シート、フィッシュボーン、KJ法などこれまで先生方が研修してきた方法をいろいろな場面で活用する。

### ◎ 全体研修会

- (1) 各チームの研究内容を共有する。(紙面A4・2枚、発表)

## 7 年間計画 ※全校研修日のほか、各チームの計画に沿って研修を進める。

月	校内研究の主な予定 ●：全校授業研究会
4	○全校研修日①(27日)・校内研究実施計画の提案
5	○全校研修日②(25日)・チーム編成・チームの研究計画立案(テーマ・仮説など) ・研究授業の実施計画・対象児童生徒の選出など
6	○全校研修日③(22日)・各チームの計画により実施
7	
8	
9	○全校研修日④(21日)
10	○全校研修日⑤(26日)
11	○全校研修日⑥(24日) ●外部専門家の活用による授業研究会(30日) 講演「児童生徒が主体的に学ぶことができる授業づくり」 岩手大学教育学部教授 名古屋 恒彦 先生
12	○各チームの研究のまとめ提出 ○全校研修日⑦(22日)・各チームの実践発表
1	○全校研修日⑧(25日)・各チームの実践発表
2	○全校研究日⑨(22日)・校内研究のまとめと次年度への課題
3	○全校研修日⑩(23日)・次年度計画立案・検討